

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600941		
法人名	特定非営利活動法人 養老会		
事業所名	養老の泉パートⅡ		
所在地	豊後大野市大野町大原1186番地1		
自己評価作成日	令和6年2月8日	評価結果市町村受理日	令和6年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4472600941-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府壱番館 1F
訪問調査日	令和6年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族面会が窓越しからマスク着用の対面面会にすることが出来、入居者一人ひとりが少しでも安心していただける様に家族との時間を大切に出来るよう工夫している。今まで、外出も規制がありなかなか思うように出来なかったが、少しずつ出来るようになってきている。

職員も理念、行動目標をフィードバックし、入居者一人ひとりに寄り添い、思いを傾聴し、優しい声掛けと笑顔を忘れないよう接することを心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設より、経年による医療依存度や高齢化・介護度の高さも見られますが、職員の細やかな気配りや傾聴・寄り添いの姿勢が、理念である“笑顔・健康・貢献”の実践と言えます。家族アンケートの中にも「本人の反応や様子を見て対応している」「毎日の様子を手紙で知らせて頂き感謝している」等があり、コロナ禍での家族の不安に対する支援は安心と信頼に繋がっています。コロナ感染症が5類に移行され感染対策を行い、面会も以前に戻し外出や地域交流も少しずつ参加出来るよう取り組んでいます。職員間でも意見や要望等、お互いに言える関係ができており、職員の意見は会議で検討し柔軟に対応する姿勢は、職員のモチベーションに繋がっています。入所された方が重度化しても、慣れ親しんだ地域の中で最期まで安心して暮らすことが出来るよう看取り介護を行っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールに掲示して、唱和をする事で職員全員が共有できるようにし、理念に沿ったケアを心がけている。	法人理念「笑顔・健康・貢献」をホールに掲示し、毎日のミーティングで唱和し共有と実践に繋げています。2ヶ月毎の会議の中で、理念が実践できているか反省及び評価により、日々の目標を持って支援するよう心掛けています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策でしっかりした交流は出来ないが、地区の清掃活動や行事に参加している。回覧板を回したり、事業所の行事にも少しづつ参加してもらっている。	自治会に加入しており、回覧板や運営推進会議の時に地域との情報交換を行っています。地区清掃活動や行事の参加は職員が協力しており、今後地域の方々との交流を増やす計画です。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じ、民生委員やボランティアの方に日々の実践で積み上げた知識を提供できるように心がけている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のヒヤリハット報告書や事故報告書、近況報告等を行っている。また、参加されている皆様から、意見やアドバイスを頂きサービスの向上に努めている。	2ヶ月毎に1度、行政・家族・地域(民生委員)・かかりつけ医の関係者等の参加により開催されています。毎回テーマを工夫し、意見交換を行うとともに防災訓練時に地域に声掛けを行う等出された意見を運営に反映させています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者と連絡を密にとり、協力関係を築くようにしている。	運営推進会議に行政の出席もあり、運営状況について説明し、助言を得ています。防災訓練では防災アドバイザー(社協)の指導及び協力を得る等協働関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修や日々の実践を通じ身体拘束への理解を深め、身体拘束防止に努めている。また、見守りを徹底し、鍵をかけない自由な暮らしを支援している。	身体拘束廃止について年3回以上の研修を行い、全職員はその内容と弊害を認識し、身体拘束をしないケアを実践しています。虐待防止に関しては、eラーニングを利用し研修しており、スピーチロック等不適切な対応は職員で話し合い支援しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を定期的に行い、研修で得た気づきを日々の実践の中で、職員どうしで共有し、虐待防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修や地域の研修会に参加し、制度への理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要事項を十分に説明し、不安や疑問がないようにしている。納得できるまで説明し、契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に、積極的に声をかけ気兼ねなく話せる雰囲気作りを心がけ意見を言いやすくしている。それらを日々のサービス提供に反映している。	家族の面会時には意見を伺うよう努めるとともに、管理者は電話でいつでも要望・意見を出してもらおうよう体制をとっています。出された意見等は申し送りノートや業務日誌に記載し職員間で情報の共有に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面接時、日々の業務の中で意見を出せるようにし、実践に活かしている。	会議やミーティングで意見を聞く場を設け、必要に応じて協議を行っています。管理者は職員が意見を出しやすい雰囲気を作っており、代表者・管理者は意見や提案を運営に反映する姿勢を持ち続けています。個別面談を行う中で職員のモチベーションに繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が頻繁に現場に足を運び、状況把握に努めている。職員にも声をかけ、疲労やストレスの要因等に気を配り、職員同士向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月課題のあるオンライン研修を受講している。外部への研修も積極的に参加できるよう、情報提供し、すすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流がほとんど出来ていない。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が求めている事や不安なことに耳を傾け理解できるよう努めている。また、本人の思いに向き合い安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入所後、面会時等にご家族の思いを聞き、どのようなサービスが出来るか話し合いながら、不安を取り除けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困ったことや不安なことがあれば、解決策を話し合い即座に改善実行できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや不安等、日々の会話の中から聞き出し、出来ることを共にして頂き、共に暮らしていく関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の様子や、体調の変化等を家族に連絡し相談することで、職員と家族が協力して、共に本人を支えていく関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所との関係性は薄くなったが、馴染みの人とは、面会等を通じ交流が途絶えないようにしている。	入所前の馴染みの理髪店に来てもらい、友人・知人等は家族の協力を得て面会や電話連絡を依頼し親戚や頻りに会えない家族との関係継続を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自由に交流出来る環境を作るように心がけている。孤立しないようにしているが、トラブルに発展する場合もある。トラブルが起きた場合は速やかに介入し、お互いにダメージが残らないように対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなったり転所した場合は、それまでの本人の日常の様子が分かるような情報を提供する体制があるが、引き続いての関係は築けていない。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉や表情などで思いをくみ取るよう心がけている。また、自分の意志を伝える事の出来ない利用者には、職員本位にならないようご家族に情報をもらうなどして、職員で話し合いながら検討するようにしている。	普段からコミュニケーションを密にとり、その中から本人の思いを汲み取り希望や意向の把握に努めています。意思表示困難な利用者にも顔の表情や言葉・声の調子から、思いや気持ちを把握し支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートには生活歴を記入する項目がある為、入所時の聞き取りやご家族に記入してもらっている。その情報を職員間で共有している。入所後も、ご家族や兄妹等から得た情報は記録し、共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で、本人の出来ること分かることを見つける視点を持って観察し、記録をこまめに取るよう心がけている。出来ることに注目し、声掛けをするようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議やカンファレンスで職員間の情報を出し合うようにしている。変化があった際も早めに情報のすり合わせをしたりしている。	カンファレンスや3ヶ月毎のモニタリング・状態の変化に合わせ、担当職員・家族の意向・医師等の関係者の意見を含めケアプランを作成しています。サービスの実施状況はケース記録にて評価しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実際の利用者の様子やケアの実践については、個別記録用紙に記録している。介護計画の見直しの際も計画と実践と記録を一連の流れとして全職員が、認識できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて柔軟に対応するよう心がけている。しかし本人のニーズを十分に引き出せているかは不安が残る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握が難しい。本人との地域の関りがほとんど出ていない。 地域と職員の関が多い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医について尋ねている。本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。何かあれば、直ぐにかかりつけ医に相談できる体制をとっている。運営推進会議にも参加していただいている。	主治医の往診による定期的な検診が行われています。必要に応じて、専門医への受診支援も家族の協力を得ながら支援されています。各医療機関と関係を密に築かれ、その時々迅速に必要な支援が受けられるよう体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子や状態変化、急変時等直ぐに看護師に報告し対応するようにしている。看護師の判断により、受診や臨時往診等受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリー等で様子を知らせている。入院中は、病院や家族と連絡を取り合い、本人の状態を把握するようにし、関係者と相談しながら早期に退院出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期と段階ごとに応じて家族や医師を交えて話し、方向性を共有している。また、記録を取ることで職員と共有し支援の統一を図るようにしている。	入所時に施設として出来る事の説明をされています。施設ではデスカンファレンスを職員全員で重ねながら利用者の状況に合わせ主治医・家族・施設での連携体制を整え、安心して納得した最期を迎えられる体制を整え取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、研修などで学んだことを会議等で報告し実践につなげている。応急手当等確実に覚えていき実践に結び付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災アドバイザーの方々の講演を聞いたり、火災や地震災害等も想定した避難訓練を行っている。	今年度は防災アドバイザーの協力を得ながら、今までの訓練に加え様々な視点から災害訓練や備蓄等の準備を職員全員で見直し、今後の災害対策に活かすよう取り組まれています。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけている。会議等でも話し合い、言葉かけや対応について注意するようにし、本人が不快な思いをしないように気を付けている。	毎年職員全員で研修を重ねながら、日頃より処遇において利用者の気持ちを最優先に考えながら支援に努めています。職員間で利用者の情報を共有し、その時々利用者に合わせた処遇を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた声掛けをし、したいことが自己決定できるようにしている。自分から要望が言えない方には、表情や態度からくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、できる限りそれに合わせた対応を心がけている。しかし、入浴や行事等は職員の都合になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせ、洋服を選ぶ方には一緒に入浴の着替えを選んでもらったり、さりげなく髪の乱れを整えたりし、身だしなみがおろそかにならないよう注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを知り、極力提供できるようにしている。準備は一緒にできないが、洗い片付けやお盆拭き等一緒に行っている。	利用者の出来る事は、職員と一緒に準備や片付け等取り組まれています。食事・おやつなど、好みやその時々希望を出来るだけ反映されるよう努めています。今後は、以前のようにイベント食も充実されるよう準備されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ケース記録に、一日の水分量や食事量が分かるように記録している。それぞれの状態に合わせて食事が取れなくなった時などは、食事形態を変えたり、時間をずらしたり、本人が食べられるものを準備したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にケアを行っている。本人が出来るところは声掛けをしてもらいが、最終チェックは職員が行っている。ケア用品も、個々に合わせたものを使用しケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄チェック表を使用し、さりげない声掛けを行いトイレでの排泄を促している。	利用者の排泄チェック表を職員が確認し、支援に生かせるよう体制を整えています。利用者の状況を最優先しながら、気持ちよく安心して排泄出来るよう支援をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取をしてもらったり、体操で軽い運動をしてもらったりするよう心がけている。それでも出ない際は、下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定はある程度職員が決めているが、一人ひとりの思いに合わせ、無理強いはいしていない。日を変えたり、入浴をしようと思ってもらえるような声掛けを工夫している。	利用者の体調・気分等を大切にしながら気持ちよく入浴して頂けるよう、様子を常に職員間で共有しながら支援に努めています。入浴に関してケアへの気配りを様々な工夫されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や表情、希望を考慮し、ゆっくり休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬中の薬の説明書を、個別にファイルに綴り、職員がいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが出来ることを把握し、洗濯物をたたんでもらったり、ジュース等嗜好品のある方には、提供したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策に留意し、季節を楽しむドライブを支援したりしている。 家族が外出に連れて行くことはあまりない。	最近では少しずつ以前のようにドライブに出かけたり、外出支援をされています。日常的に、施設内のデッキで外の空気を感じて頂き、時にはそのままおやつを頂くこともあり、出来る事の支援に努めています。	以前のように、ドライブ先でおやつ等頂いたり、楽しみを少しずつ増やして行く予定があるので、実現出来ることを希望します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者が自分でお金を持っていない。時々購買者が来た時等、個々に声掛けをし、自分で買ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を本人がすることは無いが、希望があれば職員が掛け話をしてもらっている。話せない方は、職員が電話で近況を報告したり、毎月ご家族の方に日々の様子を写真を添え伝えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度に気を配り、心地よい環境作りを心がけている。また、季節の飾りを職員で作ってホールに飾っている。	利用者の体調やその時々の気分に合わせて、家具の配置等も柔軟に対応されています。壁面には職員と一緒に作った作品や季節を感じる飾りつけで、居心地よく過ごして頂けるよう工夫され、温室管理・感染予防対策等の対策もされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、ホールの移動は自由であり、思い思いに過ごせるようにしている。また、利用者同士で話ができるよう椅子の位置も工夫している。ソファや畳のスペースもあり、自由に利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や写真等、本人の馴染みの物を持ち込んでもらっている。個々の心地の良さに配慮した空間ができるよう工夫している。	利用者が、安全・安心に過ごし頂けるよう、家族の協力を得ながら居室づくりに努めています。その時々体調や気分等に配慮しながら居心地よく過ごして頂けるよう、工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりを付けたり、トイレにレストテーブル等配置し、自分で出来るところまでしてもらう工夫をしている。また、安全な環境作りを心がけている。		